

(別紙5)

整理番号 2023P-139
補助事業名 2023年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動補助事業
補助事業者名 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

聴覚障害教育の進展を図り、聴覚障害児・者の福祉を増進すること。

(2) 実施内容

①ワイヤレス補聴援助システムの購入・無償貸与事業

<https://www.choukaku.com/lending.html>



ワイヤレスマイク



受信機

年度当初に全国聾学校・聴覚支援学校、難聴児通園施設等に事業案内を送付し、聴覚障害児が在籍、通園している学校長、園長を通じて貸与希望を受け付け、集約する。

地域的なバランスや配付台数の調節をした上で、貸与先を決定し、保護者あてに貸与機器を送付する。機器の活用や保守管理に当たっては、幼児児童生徒の担任と保護者は連携して対応するものとする。

2023年度は、15セット(送信機、受信機、オーディオシュー等)を15家庭に貸与した。貸与を受けた家庭の子どもは、難聴児通園施設、聾学校・聴覚支援学校、小学校難聴学級、中学校難聴学級、普通小・中学校に在園、在籍している。

(別紙5)

② 聴覚障害乳幼児教育支援事業

<https://www.choukaku.com/classroom.html>



堺聴覚支援学校における実施の様子



三重県立聾学校における実施の様子

全国で乳幼児支援事業を希望している教育機関13カ所程度に絞り、乳幼児教育に経験豊富で指導力のある先生方を講師として派遣し、保護者や教職員に講演や直接指導をしていただき、担当者が学ぶという事業である。今年度は、長野ろう学校、三重県立聾学校、新潟県立長岡聾学校、島根県立松江ろう学校、埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園、福島県立聴覚支援学校平校、香川県立聾学校、徳島県立徳島聴覚支援学校、佐賀県立ろう学校、鹿児島県立鹿児島聾学校、大阪府立中央聴覚支援学校、岡山県立岡山聾学校、大阪府立堺聴覚支援学校であった。

2 予想される事業実施効果

① 有線の補聴援助システムからワイヤレス補聴援助システムに切り替えて、2年目である。高価なこの補聴援助システムはまだ自治体からの支援が少なく最近になって、高校や大学からも問い合わせが相次いでいる。0才児から20代までの軽度の難聴児から高度難聴児まで需要は高く人工内耳の装用児においても必要とされている。本事業は今後も継続実施されていくことの意義は大きい。

② 聴覚障害児の教育に携わっている指導者にとって大きな拠り所になる事業だと考えて居る。特に聴覚障害教育は生まれてから5才までの期間がとても重要であり、この時期にきちんと日本語の獲得を図っていくことが大きな意味を持つ。その子の将来を左右するといっても過言ではない。また、身近な大人とのコミュニケーションを取ることが人として育っていく上で、心の安定や情緒の安定、人への信頼を寄せられる大きな鍵となる。こうしたことから、お母さん達への支援をしていく指導者の要請は急

(別紙5)

務である。全国の教育機関がこの事業を活用し、安定してお母さん達を育てることに支援していきたいと考える。多くの学校から事業に対する要請が増えていくと思われる。

今後とも、当協会で企画実施される様々な事業が、公益財団法人JKAの補助事業として実施されることは、極めて意義深く、広く社会の理解と支持を受けるものであると確信している。

教育指導の成果の評価は、単年度あるいは短期間で行うことは適切ではない。ある程度の長い年限を継続実施していく中で、評価されるべきものである。公益財団法人JKAがこうした分野での事業支援を継続していくことは、障害のある者、無い者がともに社会で豊かに暮らす「共生社会」の構築を推進していく上で、大きな役割を果たすものである。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

今年度は該当するものは 無し

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
(チョウカクショウガイシャキョウイクフクシキョウカイ)

住 所： 〒170-0005
東京都豊島区南大塚3丁目43-11 福祉財団ビル5階

代 表 者： 会長 山東 昭子(サントウ アキコ)

担 当 部 署： 事務局 (ジムキョク)

担 当 者 名： 専務理事 松本 末男(マツモト スエオ)

電 話 番 号： 03-6907-2537

F A X： 03-6907-2915

E - m a i l： wasedanomori@amethyst.broba.cc

U R L： <http://www.choukaku.com/>